Project
C-04
地域協働専攻
地域環境科学グループ

地域プロジェクト（2021 前期～2021 後期）

地域における音環境の調査と提案

【メンバー】 ［学　生］ 家崎 深愛/折笠 天紀/高附 竜平/寺崎 巧真/安田 小夏/山本 芽玖
［担当教員］ 今野 英明

【背景】

函館では現在、新型コロナウイルス感染症の打撃により観光客が大きく減少しているという課題と、地元住民が自粛生活を行っているという問題がある。そこで、本プロジェクトでは、前年度までの活動を引き継ぎつつ、観光客に函館の音を通じて魅力を知ってもらうと同時に、外出自粛をしている地元住民に向けて函館の魅力を再発見してもらえるような活動をしようと考えた。

【目的】

観光地やイベント、さらには公園などの音を発信することで、函館市外に在住の方々のみならず、地域住民へも函館の魅力を伝えることを目的とする。

【概要】

函館周辺の音を集め、Web サイト上で公開する。今回、新たな取り組みとして Web サイトの多言語化を図り、国内だけではなく海外への発信も行う。また、パンフレットを作成し、函館市内の各施設に設置する、SNS で活動の進捗状況を報告するなどの広報活動を行う。

【プロセスと成果】

前期は、過年度プロジェクトを把握し、本年度の活動概要を決定した後に、音響班と Web 班に分かれて活動をした。音響班では、「TASCAM DR-701D」と立体音響での収録が可能な「ZOOM H3-VR」という機材を用いて音の収録を行った。Web 班では Web サイト作成のために Wix を用いた。

後期でも音響班と Web 班に分かれての活動を行った。音響班は音の収録を行いながら、広報用のパンフレットの作成をした。音源収録の際には、ただ音を収録するのではなく、そこで働く地域の方々に協力を依頼して交流を行いながら収録することを心掛け、地域に密着した活動を行うようにした。Web 班では、収録した音源の編集をした後に Web サイトに音を掲載するための動画編集を行った。パンフレットは函館市内の計 13 か所の施設に協力をお願いし、計 180 部を 1 月中旬から設置した。さらに、サイトに載せる音源説明の英語訳や中国語訳を行ったほか、マップに配置するオリジナルのキャラクター作成を行った。Web サイトは 12 月 23 日に一般公開し、その後も音源の更新を重ね、1 月 28 日に完成した。SNS での宣伝を行うため Twitter アカウントを作成し、それぞれの班から 1 人ずつを代表として選出し、進捗状況を報告した。

成果として、本プロジェクトでは函館の音の魅力を伝えるために Web サイトを作成してパンフレットと SNS で広報活動をした。パンフレットの持ち帰り部数は 72 部(2 月 16 日時点)で Web サイトのアクセス数は 271(2 月 17 日時点)であった。Web サイトには国内のみならず、アメリカや台湾など国外からのアクセスも見られた。また、インターネットを通して私たちの活動を知っていただいた函館市公式観光情報サイト「はこぶら」の函館の音ライブラリーに音源提供を行った。

音源収録の様子
（左：金森赤レンガ倉庫群　右：函館市熱帯植物園）

Web サイト上のマップ

【総括と反省・今後の課題】

私たちは、新型コロナウイルスの影響による観光客の減少、さらには地元住民の外出自粛に努めなければならないという地域課題に対して、函館特有の音を通じた魅力の発信を行った。前期と後期の活動を通して函館各地の音を収録し、Web サイトを作成した。広報活動としてパンフレットの作成、SNS での進捗報告を行った。

反省点としては、SNS での広報活動でプロジェクトを多くの人に広めることができなかったことが挙げられる。後期から Twitter を通じての広報活動を行ったが、学外の方々に閲覧してもらうことは容易ではなく、フォロワーの数を増やすことができなかった。また、収録を予定していたイベントが新型コロナウイルス感染症の感染状況を理由に相次いで中止となってしまったが、そうなった場合の対策を十分に考えておらず、作業が滞ってしまったことも反省点である。

今後の課題としては、SNS での広報活動を函館に興味のない人々にも届くように工夫することであると考える。今回のプロジェクトでは後期から SNS での広報活動を行ったが、多くの人に見てもらうためには、早い時期から始めて投稿数を増やしていかなければならないだろう。さらに、ただ活動の進捗情報を発信するだけではなく、音である利点を活かした活動も模索していかなければならない。また、Web サイトでの音源公開や、SNS を使っての広報活動では、若い世代にしか情報が届かないことも考慮していく必要がある。Web サイトを中心とした活動以外も、インターネットに馴染みのない方々へ情報を発信していくために、地元ラジオ局との協力など、活動の幅を広げていかなければならない。現段階では、函館に興味のある人だけの広報活動となってしまっているため、函館に関心のない人々にも面白いと思っていただき、実際に訪れてもらうための方略を考えていく必要がある。

【地域からの評価】

音源収録やパンフレット配布の際に、昨年度までの活動を知っている地域の方々に応援の声をいただくことがあった。また、収録の交渉の段階で新型コロナウイルス感染症の感染状況を理由に収録をお断りされた施設の方々からも「おもしろいプロジェクトだ」と言っていただき、活動そのものに興味をもっていただくことができた。

また、成果発表会において本プロジェクトに寄せられた意見に目を通したところ、「音を観光資源としている点が斬新で面白い」「多言語化を図り、海外へもアピールして結果も得ており素晴らしい」というようなポジティブな内容が多かった。一方で、「音という独自性を活かした ASMR や作業用 BGM を導入してほしい」「面白いプロジェクトであるが広報活動が限定的すぎる」というような改善点も指摘された。特に広報活動が限定的すぎるという点に関しては、プロジェクトメンバーも問題視しており、方針決めの段階で「ラジオ局へ協力を依頼してみてはどうか」というような意見が出たものの実現には至らなかった。しかしながら、函館市公式観光情報サイト「はこぶら」より函館の音ライブラリーへの音源提供の依頼を受けたこと、「はこぶら」のニュースにも活動が取り上げられたことで前年度よりも広報の幅を広げることができたのではないかと考える。

【その他】

年間スケジュール

＜前期＞		＜後期＞	
5月～7月 方針決め	8月 中間発表	10月～12月 パンフレット作成 イラスト作成 音の収録 Web サイトの作成	1月 パンフレット配布 最終発表

●謝辞

本プロジェクトの活動にあたり、「ローソク貰い」の歌の音源収録にご協力いただいた北海道教育大学附属函館小学校の児童の皆様と先生方、保護者の皆様をはじめ、音源の収録やパンフレットの設置などの広報活動を快く承諾してくださった函館市内各施設の皆様に心から感謝いたします。

作成したパンフレット